

昭和55年度漁況海況予報事業浅海定線調査 (陸奥湾)

(要 約)

永峰 文洋・天野 勝三・早川 豊・三津 谷正
 浜田 勝雄・尾鷲 政幸・高橋 克成・松尾 和英

この調査は、陸奥湾内における海況の特徴や永年変化などを把握して、湾内の漁業および増養殖業の健全な発展に資するため、海況予報に関する基礎資料を得ることを目的として実施してきたものである。本年度は継続9年目の調査年度であった。なお、本調査の詳細については既に報告済み⁽¹⁾であるのでここでは要約のみにとどめる。

調 査 方 法

調査地点・回数：6定点、毎月1回(1～3月を除く)計9回観測

調査水深：0・5・10・20・30・40・50mおよび底層(底上2m)

調査項目：水温、塩分、COD(2地点)、クロロフィルa(2地点)、溶存酸素(3地点)、水色、透明度、卵・稚魚・動物プランクトン(2地点)、植物プランクトン(2地点)、気象

調 査 結 果

- (1) 海況の推移と特徴については表-1にまとめて示した。
- (2) CODは夏の極小期の低下が例年ほどでなく、例年より高めであった。
- (3) クロロフィルaは0.08～0.76mg/m³の範囲であった。
- (4) 溶存酸素の最低値は10月にst.2の底層で得られた4.07ml/l(飽和度71.4%)であった。最低溶存酸素量の出現時期は調査地点によって1ヶ月ほどの差異があった。
- (5) 水色は3～5、透明度は9～22mの範囲で、例年と大差がなかった。
- (6) 稚魚は例年にくらべて全般的に種類数・個体数ともに少なく、例年最も多く出現する8月に調査を行っていない事を考慮してもなお少ないと言えた。魚卵ではカタクテイワシ卵が最も多かったが、例年にくらべればかなり少なかった。
- (7) 動物プランクトンでは夜光虫の大量発生がみられず、冷水性種の出現が目立った。
- (8) 植物プランクトン細胞数は4・10月に極大となり、10月には暖海性種が多かった。

引 用 文 献

- (1) 青森県水産増殖センター(1981)昭和55年度漁況海況予報事業 浅海定線調査結果報告書

表1 昭和55年度陸奥湾海況の推移と特徴

月	実 況	例年比・前年比	特 記 事 項
4	表面水温は5～7℃前後、底層では3～6℃台。塩分は調査日前の降雨の影響もあり表面では29～33‰、底層では33～34‰。全体としては西湾で高温・高塩分。	水温は西湾の底層でほぼ例年並みの他は2～3℃例年より低目。塩分は西湾の底層で例年並み～やや高め他は、おおむね低目。	
5	表面水温は9～11℃、底層では6～8℃。塩分は表面で32.5～33.2‰、底層で33.0‰～33.7‰。	水温は例年より依然低く、1～2℃の差がある。塩分は例年より表層ではやや低いが、底層ではほぼ例年並み。前年比の水温では表面で同程度の他は1～2℃低い。塩分は前年より1‰程低い。	
6	水温は表面で15～16℃程度、底層で7～12℃台。塩分は表面で32.6～32.9‰、底層で32.3～33.6‰。低水温傾向は弱まりはじめる。	水温は例年と比較して底層では例年並み～やや低目となっているものの、表・中層では概ね0.5～3.0℃程高目。塩分は例年よりかなり低く最大1.4‰程度の差がある。前年比の水温は東湾では例年並み～1℃程度高目、西湾では最大2℃程低目。	
7	水温は表面で18℃前後、底層では11～14℃。塩分は表面32.6～33.3‰、底層では33.1～34.0‰。	例年比では水温は西湾の表～中層で1℃程高目となっている他はほぼ例年並み。塩分はほぼ例年並み。水温の前年比では表層では1℃程高いが他は全般に低く、差は1～6℃。	冷夏。
8	水温は表面で19℃前後、底層で13～18℃で東湾の底層で低い。塩分は表面32.7～33.4‰、底層で33.6～34.2‰。(9月1日観測)	例年の水温に比べて全般的にかなり低く2～4℃、ところによっては5℃程の差がある。前年比でも3～5℃低い。塩分は底層ではほぼ例年並み、他は低目。	記録的な低温。青森市の月平均気温19.6℃(平年差-3.0℃)、茂浦地先での沿岸観測では最高水温22.0℃。旬平均水温は20℃に達せず、昭和43年観測開始以来最も低水温で経過。
9	水温は表面で21℃前後、底層で16～20℃台。東湾で低い他、湾中央部の底層にも低水温域が見られた。塩分は表面で32.5～33.3‰、底層で33.2～33.8‰。	例年と比較すると1～3℃低く、前年と比較してもほぼ同程度低い水温となっている。塩分は全般的に例年より低目であった。	茂浦地先での沿岸観測水量の月平均は20.0℃(平年21.53℃)で前月よりやや高かった。観測開始以来第2位の低水温。
10	水温は表面で19℃前後、底層では16～20℃、30m程度までの水温差は解消した。塩分は表面33.0～33.3‰、底層33.1～34.0‰。	水温は例年と比較すると全般に1～2℃低いが、底層では1℃前後の幅で高低がある。前年比でもほぼ同様。湾中央部から東湾の底層を中心とする水域ではなお前月比1～2℃昇温した。塩分は前月と同傾向。	10月4日頃から20日頃までの間横浜町沖合で斃死魚が水揚げされた。現象は昭和53年9月の斃死魚の水揚げ事例とほぼ同様であるが症状は軽度であった。
11	水温は13～15℃台で鉛直混合はほぼ海底まで達していた。塩分は33.0～33.7‰。	例年との差では低水温傾向は弱まり、西湾では差は1℃以下となったが、東湾では依然1～2℃以上低い。前年比では全般的に1～2℃以上低い。塩分は西湾ではほぼ例年並みとなったが、東湾ではやや低目。	
12	水温は東湾11℃台、西湾13℃台。塩分は33.1～33.7‰。	11月後半の好天を反映して低温傾向は解消し全般的に例年より1℃前後高目に転じた。前年比でもほぼ同様。塩分はほぼ例年並みとなった。	